延辺朝鮮語のアクセントに関する考察[1]

朴　永梅

1．はじめに

1．1．延辺朝鮮語[2]の定義

中華人民共和国（主に東北の遼寧、吉林、黒龍江三省）には約 186 万人の朝鮮族が暮らしている。そのうちおよそ半数に相当する約８２万人が吉林省にある延辺朝鮮族自治州（以下、延辺という）で生活している。

延辺における朝鮮語の主要方言は北朝鮮の咸鏡道方言が基礎になっている。従って、本文でいう延辺朝鮮語とはこういった基礎方言が１世紀にわたって朝鮮半島の朝鮮語から離れ、その内的な変化と外的な影響を経て成立した今日延辺で通用していることばを指す。

1．2．研究の目的

この半世紀、中国で話されている朝鮮語は絶え間なく中国語と接触してきた。それと同時に北朝鮮の朝鮮語の影響を受けてきたが、韓中国交正常化以来、韓国語の影響が強くなっている。

この言語に関する先行研究は少なく、特にアクセントについてのまとまった研究は皆無に等しい。本論文では、咸鏡道方言のアクセント研究と対照しながら、共時的な観点から、延辺朝鮮語のアクセントはどのような様相を呈しているかについて述べる。さらに、複合名詞のアクセント規則や借用語へのアクセント付与を考察に加えることによって、延辺朝鮮語のアクセントの default 型を明らかにすることを試みる。

---

[1] 本稿は、筆者が 2000 年に提出した修士論文の一部と、第 120 回日本言語学会（2000 年）にての口頭発表に、修正を加えたものである。

[2] 延辺朝鮮語の音素目録：(梅田 1993 による)。この音素記号で本文の語例を表記する。

C:	p	t	c		k	h	SV:	j				w
	p^h	t^h	c^h	s	k^h		V:	i		ɨ		u
	p’	t’	c’	s’	k’				e	ə	o	
	m	n	r		ŋ				ɛ		a	

中国で話されている朝鮮語は中国語との接触により、例の 64c などのように、朝鮮語にはもともとなかった音素/f/が取り入れられている。

1．3．先行研究

1）延辺朝鮮語のアクセント研究において、直接参考になるものとしては、梅田（1993）がある。この中では、「延辺朝鮮語（咸鏡道方言）には高低アクセントの音韻対立がある」ということと「n音節の形式についてはn＋1種類のアクセントの区別があるということになる。」(p.134）ということが言及されているが、それ以上の詳しい記述はない。

2）福井（1999）にも中国の朝鮮語と咸鏡道方言との結びつきについての短い記述があるが、これはRamsey（1978）をもとにしているものと思われる。

3）全（1986）と全（1988）は、中世で使われていた語彙項目が延吉（延辺首府）で話されている朝鮮語において、断片的にどのように高低（ピッチ）に対応するのか調べることによって、中世朝鮮語の傍点の本質を辿ろうとしたものであり、本論が扱う問題に直接な関係はない。

2．延辺朝鮮語のアクセント

延辺朝鮮語のアクセント体系はピッチアクセントであり、1つの韻律単位において、1つの卓立（prominence）が与えられる。このアクセントは意味の弁別に関与する。

アクセントパターンにおいて、アクセントのない平板型（unaccented pattern）が観察されるが、それが2音節以上である場合、その音声的な実現は[L...LL]ではなく、[L...LH]である。即ち、アクセントパターン○[3]...○○と○...○○́との音声的な実現は同じく[L...LH]となる。語の独立形の音声的な韻律パターンが同じであっても、その音韻的なアクセントパターンは助詞などをつけてピッチを観察すると後述するようにアクセントパターンの違いが認められる。

2．1．Minimal Pair の例

1）a. /sícaŋ/ 「市場」 b. /sicáŋ/ 「今」

[ɕidʒaŋ] [ɕidʒaŋ]

| | | |

H L L H

2）a. /úcəŋ/ 「わざと」 b. /ucə́ŋ/ 「友情」

[udʒəŋ] [udʒəŋ]

| | | |

H L L H

---

[3] ○で音節を、´でアクセントを示す。語幹と助詞、語尾はハイフンで隔ててある。//は基底形、[ ] は表層形を示す。

2．2．体言のアクセントパターン

ア）　1音節体言のアクセントパターン

1音節体言のアクセントには○と○́という2つのパターンが見られる。

		○́			○
3）	a.	/már-i/	「話が」	b.	/mar-i/ 「馬が」
		[mari]			[mari]
		| |			| |
		H L			L H

イ）　2音節体言のアクセントパターン

2音節体言のアクセントには○́○、○○́、○○という3つのパターンが見られる。ただし、○○́型と○○型は体言が単独で現れる場合、同じく[L H]で実現されるため、それらを弁別するには助詞のついた状態で観察する必要がある。それは3音節以上の体言においても同様である。

		○́○			○○́		○○	
4）	a.	/kámɛ-ka/	「つむじが」	b.	/kamɛ́-ka/	「鍋が」	c. /kasɨr-i/	「秋が」
		[kamɛga]			[kamɛga]		[kasɨri]	
		| | |			| | |		| | |	
		H L L			L H L		L LH	
						cf.	/kasɨr/	「秋」
							[kasɨl]	
							| |	
							L H	

ウ）　3音節体言のアクセントパターン

3音節体言においては、○́○○、○○́○、○○○́、○○○という4つのパターンが見られる。

5）　○́○○　　○○́○　　○○○́　　○○○

a./tók'ɛpi-ka/	b. /apái-ka/	c. /k'akk'urɛ́-ka/	d. /kamutan-i/
[tok'ɛbiga]	[abaiga]	[k'akk'urɛga]	[kamudani]
| | | |	| || |	| | | |	| || |
H LLL	LHLL	L LHL	L LLH
「おばけが」	「お祖父さんが」	「けちが」	「歌舞団が」

cf. /kamutan/
[kamudan]
| | | |
L L H
「歌舞団」、

エ)　4音節体言のアクセントパターン

4音節体言においては、ÓOOO、OÓOO、OOÓO、OOOÓ、OOOOという5つのパターンが見られる。

ÓOOO	OÓOO	OOÓO	OOOÓ	OOOO
6) a./síapəci-ka/	b./k^{h}ik'ə́kt'ari-ka/	c./kɛkurákci-ka/	d./satunpokí-ka/	e./inminkoŋwən-i/
[çiabədʒiga]	[k^{h}ik'əkt'ariga]	[kɛguraktʃ'iga]	[sadumbogiga]	[imminŋgoŋwəni]
||| | |	| | |||	| || | |	| | |||	| | | | |
HLL LL	LH LLL	LLH LL	LL LHL	L L L LH
「夫の父が」	「背の高い人が」	「蛙が」	「婚約式が」	「人民公園が」

cf. /inminkoŋwən/
[imminŋgoŋwən]
| | | |
L L L H
「人民公園」

オ)　1．アクセントの保持と脱落

単音節助詞には、アクセントを持つものと持たないものがあると考えられる。例えば、アクセントを持つものとしては/-é/「に、へ」、/-eké/「に」など、アクセントを持たないものとしては、/-i/、/-ka/「が」、/-ir/、/-rir/「を」などのようなものが挙げられる。

一般的に、体言語幹にアクセントがある場合、語幹のアクセントが保持され、後続要素のアクセントは脱落する。体言語幹にアクセントがない場合は、後続要素のアクセントが保持される。しかし、一群の助詞/-k'ésə/「主格助詞の尊敬

語」また「から」、/-é/「に、へ」、/-eké/「に」などによって、語幹のアクセントが脱落する現象が観察される。

7）a. /póm-i/　「春が」
[pomi]
| |
H L

b. /póm-é/　「春に」
[pome]
| |
L H

8）a. /cip-i/　「家が」
[tʃibi]
| |
L H

b. /cip-é/　「家に」
[tʃibe]
| |
L H

カ）助詞が２つ以上体言語幹につくと、一般的に、語幹にアクセントのある場合は後続要素のアクセントが脱落する（例 9)。なお、一群の助詞による語幹アクセントの脱落が観察される（例 11)。語幹にアクセントがない場合は、語幹にもっとも近い助詞のアクセントが保持され、その他の助詞のアクセントは脱落する（例 10)。

9）　/hakkjó-ésə-put^{h}ə́/　「学校（に）から」
[hakk'joesəbut^{h}ə]
| || | | |
L HLL L L

１０）/cip-ésə-put^{h}ə́/　「家（で）から」
[tʃibesəbut^{h}ə]
| | | | |
L H L L L

１１）/apái-k'ésə-put^{h}ə́/　「お祖父さん（尊敬）から」
/abaik'esəbut^{h}ə]
| | | | | | |
L LL H L L L

２．３．用言のアクセントパターン

ア）　用言語幹が１音節である場合、○と○́との２つのパターンが見られる。

○́　　○

１２）a. /s’á-ta/　「包む」　　b. /s’a-ta/　「買う」
[s’ada]　　[s’ada]
| |　　| |
HL　　L H

c. /s’á-kú/　「包んで」　　d. /s’a-kú/　「買って」
[s’agu]　　[s’agu]
| |　　| |
H L　　L H

e. /s’á-ásə/　「包んで」　　f. /s’a-ásə/　「買って」
[s’asə]　　[s’asə]
| |　　| |
H L　　H L

基本的には、用言語幹にアクセントがある場合は、語幹のアクセントが保持され、後続要素のアクセントは脱落する。用言語幹にアクセントがない場合は、後続要素のアクセントが保持される。しかし、上の例のように、母音融合によって、アクセントが１つにまとまったり（12e)、アクセントのない語幹とアクセントのある後続要素が融合したりすることがある（12f)。

また、使役、受動を表す接尾辞/-í-/、/-ú-/などのアクセントによって、語幹のアクセントが消去される場合もある。

１３）a.　/ár-ta/　「知る」　　b.　/ár-í-ta/　「知らせる」
[alda]　　[allida]
| |　　| | |
H L　　L H L

語幹の音節数が増えても、アクセントの保持と脱落については、上述したような傾向は同様である。

イ）　用言語幹が２音節である場合、Ó○、○Ó、○○という３つのパターンが見られる。

Ó○　　○Ó　　○○

１４）a. /mósi-ta/　「仕える」　b. /kətú-ta/　「片づける」　c. /mukəp-ta/「重い」
[moçida]　　[kəduda]　　[mugəpta]
| | |　　| | |　　| | |
H LL　　L H L　　L L H

ウ）用言が３音節である場合、Ó○○、○Ó○、○○Ó、○○○という４つのパターンが見られる。

	Ó○○	○Ó○	○○Ó	○○○
１５）	a./k’apuri·ta/	b./nasatɨr·ta/	c./k’atɨkc^{h}a·ta/	d./jəkp’arɨ·ta/
	[k’aburida]	[nasadɨlda]	[k’adɨktʃ^{h}ada]	[jəkp’arɨda]
	| |||	|| ||	|| ||	| |||
	H L L L	LH L L	L L H L	L L L H
	「ふざける」	「近づく」	「満杯になる」	「手早く」

ウ）　用言語幹が４音節で場合、次のような５つのパターンが観察される。

	Ó○○○	○Ó○○	○○Ó○
１６）	a. /kíkamɛk^{h}i·ta/	b./mut^{h}ɨ́rteri·ta/	c./mik’aŋsɨ́rəp·ta/
	[kigamɛk^{h}ida]	[mut^{h}ɨlderida]	[mik’aŋsɨrəpta]
	| || ||	| |||	| |||
	H L L L L	L H L L L	L L H L L
	「あきれ返る」	「無愛想な」	「憎たらしい」

	○○○Ó	○○○○
	d. /hott’orkəri·ta/	e./cɛcɛpuri·hata/
	[hott’olgərida]	[tʃɛtʃɛburiñada]
	| |||	| ||||
	L L L H L	L L L L L H
	「軽はずみだ」	「細かい」

２．４．ピッチ付与規則

語（また体言＋助詞、用言＋語尾）において、アクセントを担う音節は高調（H）で実現される。その他の音節は低調（L）になる。アクセントがない場合は、最終音節のみが高調になる。

アクセントパターン				ピッチパターン			
１音節	２音節	３音節	４音節	１音節	２音節	３音節	４音節
Ó	ÓO	ÓOO	ÓOOO	H	HL	HLL	HLLL
O	OÓ	OÓO	OÓOO	L	LH	LHL	LHLL
	OO	OOÓ	OOÓO		LH	LLH	LLHL
		OOO	OOOÓ			LLH	LLLH
			OOOO				LLLH

２．５．咸鏡道方言（Ramsey 1978）との対照

延辺朝鮮語のアクセントと Ramsey の咸鏡道方言のアクセントと対照してみると、ピッチパターンにおいて相違がある。Ramsey の表層ピッチパターンには高調（H）の連続も低調（L）の連続も見られるが、延辺朝鮮語には高調（H）の連続は観察されない。

３．複合名詞のアクセント規則

複合名詞は一語としての音韻構造を持つ。すなわち、全体で１つのアクセントパターンを示す。

３．１．延辺朝鮮語の複合名詞のアクセント規則

左側の要素[4]のアクセントは消去され、右側の要素のアクセントは保持されてその複合名詞のアクセントとして働く。すなわち、右に構成要素が幾つきても、最も右側の要素のアクセントが保持される。その要素が無アクセントの平板型であれば、その複合名詞も全体として平板型をとる。

この複合名詞のアクセント規則は、次のように、４５個の複合パターンなどをもとに、まとめたものである。

１７）Ó+O	１８）O+Ó	１９）Ó+Ó	２０）O+O
/ják/+/paŋ/	/kʰoŋ/+/múr/	/pap/+/tʰóŋ/	/mar/+/t'oŋ/
[jak]+[paŋ]	[kʰoŋ]+[mul]	[pap]+[tʰoŋ]	[mal]+[t'oŋ]
| |	| |	| |	| |
H L	L H	H H	L L
「薬」「部屋」	「豆」「水」	「ご飯」「箱」	「馬」「糞」

[4] 朝鮮語の複合名詞は日本語と同じく（意味上）非主要部＋主要部という語順をとる。

cf. /paŋ-i/
[paŋi]
| |
LH
「部屋が」

/kʰoŋ-i/
[kʰoŋi]
| |
LH
「豆が」

/mar-i/、/t'oŋ-i/
[mari]、[t'oŋi]
| | | |
LH LH
「馬が」「糞が」

/jákpaŋ/「薬屋さん」
[jakp'aŋ]
| |
L H

/kʰoŋmúr/「豆乳」
[kʰoŋmul]
| |
L H

/pápt^hóŋ/「弁当箱」
[papt^hoŋ]
| |
L H

/mart'oŋ/「馬糞」
[malt'oŋ]
| |
L H

cf. /jákpaŋ-i/
[jakp'aŋi]
| | |
L LH
「薬屋さんが」

/mart'oŋ-i/
[malt'oŋi]
| | |
L LH
「馬糞が」

２１）Ó+ÓO

/t'ə́k/+/cáŋsi/
[t'ək]+[tʃaŋɕi]
| | |
H H L
「もち」「商人」

/t'ə́kcáŋsi/
[t'əktʃ'aŋɕi]
| | |
L H L
「もち売り」

２２）Ó+OÓ

/c^hɛ́k/+/kapáŋ/
[c^hɛk]+[kabaŋ]
| | |
H L H
「本」「かばん」

/c^hɛ́kkapáŋ/
[c^hɛkk'abaŋ]
| | |
L L H
「本入り用かばん」

２３）Ó+OO

/ár/+/sokom/
[al]+[sogom]
| | |
H L H
「粒」「塩」

cf. /sokom-i/
[sogomi]
| | |
L LH
「塩が」

/ársokom/
[alsogom]
| | |
L L H
「粒塩」

cf. /ársokom-i/
[alsogomi]
| | | |
L L L H
「粒塩が」

２４）○+○́○

/k’oc^{h}/+/cáŋsi/
[k’ot]+[tʃaŋɕi]
| | |
L HL
「花」 「商人」
cf. /k’oc^{h}-i/
[k’otʃ^{h}i]
| |
L H
「花が」
/k’oc^{h}cáŋsi/
[k’ottʃ’aŋɕi]
| | |
L HL
「花売り」

２５）○+○○́

/k^{h}oŋ/+/namúr/
[k^{h}oŋ]+[namul]
| | |
L LH
「豆」 「ナムル」
/k^{h}oŋ-i/
[k^{h}oŋi]
| |
LH
「豆が」
/k^{h}oŋnamúr/
[k^{h}oŋnamul]
| | |
L LH
「豆もやし」

２６）○+○○

/san/+/param/
[san]+[param]
| | |
L LH
「山」 「風」
/san-i/ /param-i/
[sani] [parami]
| | | | |
LH L LH
「山が」 「風が」
/sanparam/
[samp’aram]
| | |
L L H
「山風」
cf. /sanparam-i/
[samp’arami]
| | | |
L LLH
「山風が」

２７）○́+○́○○

/múr/+/tók’ɛpi/
[mul]+[tok’ɛbi]
| | | |
H H LL
「水」 「お化け」
/múrtók’ɛpi/
[muldok’ɛbi]
| | | |
L H LL
「水中お化け」

２８）○́+○○́○

/cwí/+/meníri/
[tʃwi]+[meniri]
| | | |
H LHL
「鼠」 「嫁」
/cwímeníri/
[tʃwimeniri]
| | | |
L LHL
「ワラジムシ」

２９）○́+○○○́

/tór/+/tɛkarí/
[tol]+[tɛgari]
| | | |
H LLH
「石」 「頭」
/tórtɛkarí/
[toldɛgari]
| | | |
L LLH
「頭の悪い人」

３０）Ó+○○○

/hjə́n/+/jesurtan/
[hjən]+ [jesuldan]
| | | |
H L LH
「県」 「芸技団」

cf. /jesurtan-i/
[jesuldani]
| | | |
L LLH
「芸技団が」

/hjə́njesurtan/
[hjənjesuldan]
| || |
L LL H
「県芸技団」

cf. /hjə́njesurtan-i/
[hjənjesuldani]
| || | |
L LL LH
「県芸技団が」

３１）○+Ó○○

/san/+/tók'εpi/
[san]+[tok'εbi]
| | | |
L H LL
「山」 「お化け」

/santók'εpi/
[sandok'εbi]
| | | |
L H LL
「山にいるお化け」

３２）○+○Ó○

/san/+/tətə́rki/
[san]+[tədəlgi]
| | | |
L LH L
「山」「蔓人参」

/san-i/
[sani]
| |
LH
「山が」

/santətə́rki/
[sandədəlgi]
| | | |
L LH L
「山の蔓人参」

３３）○+○○Ó

/san/+/kosarí/
[san]+[kosari]
| | | |
L LLH
「山」 「蕨」

cf. /san-i/
[sani]
| |
LH
「山が」

３４）○+○○○

/səŋ/+/kamutan/
[səŋ]+[kamudan]
| | | |
L L LH
「省」 「歌舞団」

/səŋ-i/
[səŋi]
| |
LH
「省が」

/kamutan-i/
[kamudani]
| | | |
L L LH
「歌舞団が」

３５）Ó○+Ó

/írpən/+/s'ár/
[ilbən]+[s'al]
| | |
H L H
「日本」「米」

/sankosarí/
[saŋgosari]
| | | |
L LLH
「山蕨」

/səŋkamutan/
[səŋgamudan]
| | | |
L L L H
「省歌舞団」

cf. /səŋkamutan-i/
[səŋgamudani]
| | | | |
L L L LH
「省歌舞団が」

/ír pəns'ár/
[ilbəns'al]
| | |
LL H
「日本の米」

３６）Ó○＋○

/míkuk/+/sur/
[miguk]+[sul]
| | |
H L L
「米国」 「酒」

cf. /sur-i/
[suri]
| |
L H
「酒が」

/míkuksur/
[miguksul]
| | |
LLH
「米国の酒」

cf. /míkuksur-i/
[miguksuri]
| | | |
LL LH
「米国の酒が」

３７）○Ó＋Ó

/cuŋkúk/+/már/
[tʃuŋguk]+[mal]
| | |
L H H
「中国」 「ことば」

/cuŋkúkmár/
[tʃuŋguŋmal]
| | |
L L H
「中国語」

３８）○Ó＋○

/tanwí/+/cip/
[tanwi]+[tʃip]
| | |
L H L
「会社」 「家」

/cip-i/
[tʃibi]
| |
L H
「家が」

/tanwícip/
[tanwidʒip]
| | |
L L H
「社宅」

/tanwícip-i/
[tanwidʒibi]
| | | |
L L LH
「社宅が」

３９）○○＋○́

/sokom/+/tʰóŋ/
[sogom]+[tʰoŋ]
| |　　|
L H　　H
「塩」　「箱」

cf. /sokom·i/
[sogomi]
| | |
L L H
「塩が」

/sokomtʰóŋ/
[sogomtʰoŋ]
| |　　|
L L　　H
「塩入れ」

４０）○○＋○

/kasɨr/+/kʰoŋ/
[kasɨl]+[kʰoŋ]
| |　　|
LH　　L
「秋」　「豆」

/kasɨr·i/ /kʰoŋ·i/
[kasɨri]　[kʰoŋi]
| | |　　| |
L L H　　L H
「秋が」　「豆が」

/kasɨrkʰoŋ/
[kasɨlkʰoŋ]
| |　|
L L　H
「秋の豆」

cf. /kasɨrkʰoŋ·i/
[kasɨlkʰoŋi]
| |　| |
L L　L H
「秋の豆が」

４１）○́○＋○́○

/hánkuk/+/sáram/
[haŋguk]+[saram]
|　|　　| |
H　L　　H L
「韓国」　「人」

/hánkuksáram/
[haŋguksaram]
|　|　| |
L　L　H L
「韓国人」

４２）○́○＋○○́

/cʰɛ́so/+/patʰí/
[tʃʰɛso]+[patʰi]
| |　　| |
H L　　L H
「野菜」　「畑」

４３）○́○＋○○

/púkkjəŋ/+/pjəŋwən/
[puk'jəŋ]+[pjəŋwən]
|　|　　| |
H　L　　L H
「北京」　「病院」

cf. /pjəŋwən·i/
[pjəŋwəni]
|　| |
L　L H
「病院が」

４４）○○́＋○́○

/jənpjə́n/+/tɛ́hak/
[jəmbjən]+[tɛɦak]
|　|　　| |
L　H　　H L
「延辺」　「大学」

/cʰɛ́sopatʰí/
[tʃʰɛsobatʰi]
| | | |
L L L H
「野菜畑」

/púkkjəŋpjəŋwən/
[puk'jəŋbjəŋwən]
| | | |
L L L H
「北京病院」

cf. /púkkjəŋpjəŋwən-i/
[puk'jəŋbjəŋwəni]
| | | | |
L L L L H
「北京病院が」

/jənpjə́ntɛ́hak/
[jəmbjəndɛɦak]
| | | |
L L H L
「延辺大学」

45）○Ó+○Ó

/sokʰɛ́/+/utʰí/
[sokʰɛ]+[utʰi]
| | | |
L H L H
「綿」 「服」

/sokʰɛ́utʰí/
[sokʰɛutʰi]
| | | |
L L L H
「綿入り」

46）○Ó+○○

/nampáŋ/+/ɨmsik/
[nambaŋ]+[ɨmɕik]
| | | |
L H L H
「南方」 「料理」

cf. /ɨmsik-i/
[ɨmɕigi]
| | |
L L H
「料理が」

/nampáŋɨmsik/
[nambaŋɨmɕik]
| | | |
L L L H
「南方の料理」

cf. /nampáŋɨmsik-i/
[nambaŋɨmɕigi]
| | | | |
L L L L H
「南方の料理が」

47）○○+Ó○

/sokom/+/cáŋsi/
[sogom]+[tʃaŋɕi]
| | | |
L H H L
「塩」 「商人」

/sokom-i/
[sogomi]
| | |
L L H
「塩が」

/sokomcáŋsi/
[sogomdʒaŋɕi]
| | | |
L L H L
「塩売り」

48）○○+○○́

/maɨr/+/c^{h}aŋk'ó/
[maɨl]+[tʃ^{h}aŋk'o]
| | | |
L H L H
「村」「倉庫」

cf. /maɨr-i/
[maɨri]
| | |
L LH
「村が」

/maɨrc^{h}aŋk'ó/
[maɨltʃ^{h}aŋk'o]
| | | |
L L L H
「村の倉庫」

49）○○+○○

/kasɨr/+/param/
[kasɨl]+ [param]
| | | |
L H L H
「秋」「風」

/kasɨrparam/
[kasɨlp'aram]
| | | |
L L L H
「秋風」

cf. /kasɨrparam-i/
[kasɨlp'arami]
| | | | |
L L L L H
「秋風が」

50）○́○+○́○○

/sác^{h}un/+/sínui/
[satʃ^{h}un]+[çinui]
| | | ||
H L H LL
「いとこ」「義姉」

/sác^{h}unsínui/
[satʃ^{h}unçinui]
| | | ||
L L H LL
「義理のいとこ」

51）○́○+○○́○

/írt'iŋ/+/məcə́ri/
[ilt'iŋ]+[mədʒəri]
| | | | |
H L L HL
「一等」「阿呆」

/írt'iŋməcə́ri/
[ilt'iŋmədʒəri]
| | | | |
L L L HL
「大馬鹿者」

52）○́○+○○○́

/kámce/+/cicimí/
[kamdʒe]+[tʃidʒimi]
| | | | |
H L L L H
「じゃが芋」「チヂミ」

/kámcecicimí/
[kamdʒedʒidʒimi]
| | | | |
L L L L H
「じゃが芋のチヂミ」

53）○́○+○○○

/púkkjəŋ/+/kamutan/
[puk'jəŋ]+[kamudan]
| | | | |
H L L LH
「北京」「歌舞団」

/púkkjəŋkamutan/
[puk'jəŋgamudan]
| | | | |
L L L LH
「北京歌舞団」

cf. /púkkjəŋkamutan-i/
[puk'jəŋgamudani]
| | | | | |
L L L L LH
「北京歌舞団が」

54) ○Ó+Ó○○

/sinɛ́/+/cʰóŋkɛki/
[ɕinɛ]+[tʃʰoŋgɛgi]
| | | | |
LH H LL
「都会」 「若者」

/sinɛ́cʰóŋkɛki/
[ɕinɛtʃʰoŋgɛgi/
| | | | |
LL H LL
「都会の若者」

55) ○Ó+○Ó○

/noŋcʰón/+/matámɛ/
[noŋtʃʰon]+[madamɛ]
| | | | |
L H LHL
「農村」 「伯母」

/noŋcʰónmatámɛ/
[noŋtʃʰommadamɛ]
| | | | |
L L LHL
「田舎のおばさん」

56) ○Ó+○○Ó

/wɛkúk/+/paŋmurkwán/
[weguk]+[paŋmulgwan]
| | | | |
LH L L H
「外国」 「博物館」

/wɛkúkpaŋmurkwán/
[wegukp'aŋmulgwan]
| | | | |
LL L L H
「外国の博物館」

57) ○Ó+○○○

/jənkír/+/cuŋiwən/
[jəŋgil]+[tʃuŋiwən]
| | | | |
L H LLH
「延吉」 「漢方医院」

cf. /cuŋiwən-i/
[tʃuŋiwəni]
| | | |
LLLH
「漢方医院が」

/jənkírcuŋiwən/
[jəŋgildʒuŋiwən]
| | | | |
L L LLH
「延吉漢方医院」

58) ○○+Ó○○

/mair/+/hórɛpi/
[mail]+[horɛbi]
| | | | |
LH HLL
「村」 「男やもめ」

/mair-i/
[mairi]
| | |
LLH
「村が」

/mairhórɛpi/
[mailhorɛbi]
| | | | |
LLHLL
「村の男やもめ」

59) ○○+○Ó○

/mair/+/nakínɛ/
[mail]+[naginɛ]
| | | | |
LH LHL
「村」 「おっさん」

/mairnakínɛ/
[mailnaginɛ]
| | | | |
LLLHL
「村のおっさん」

cf. /jənkírcuŋiwən-i/
[jəŋgildʒuŋiwəni]
| | | | | |
L L L L LH
「延吉漢方医院が」

６０）○○+○○○́

/kɛin/+/wisɛŋsó/
[kɛin]+[wisɛŋso]
|| | | |
LH LLH
「個人」「医院」

cf. /kɛin-i/
[kɛini]
|||
LLH
「個人が」

/kɛinwisɛŋsó/
[kɛinwisɛŋso]
|| | | |
LL LLH
「私営医院」

６１）○○+○○○

/ronjən/+/jənc^{h}urtan/
[ronjən]+[jəntʃ^{h}uldan]
| | | | |
LH L LH
「老年」「演出団」

/ronjən-i/
[ronjəni]
| | |
L LH
「老年が」

/jənc^{h}urtan-i/
[jəntʃ^{h}uldani]
| | | |
L L LH
「演出団が」

/ronjənjənc^{h}urtan/
[ronjənjəntʃ^{h}uldan]
| | | | |
L L L LH
「老年演出団」

cf. /ronjənjənc^{h}urtan-i/
[ronjənjəntʃ^{h}uldani]
| | | | | |
L L L LLH
「老年演出団が」

６２）ó+ó○+○○ó+ó○+ó○

/cú/+/cə́ŋpu/+/pankoŋsír/+/c^{h}ə́caŋ/+/písə/
[tʃu]+[tʃəŋbu]+[paŋgoŋɕil]+[tʃ^{h}ədʒaŋ]+[pisə]
| | | | | | | | | |
H H L LL H HL HL
「州」「政府」「事務室」「室長」「秘書」

/cúcə́ŋpupankoŋsírcʰə́caŋpísə/
[tʃudʒəŋbubaŋgoŋɕiltʃʰədʒaŋbisə]
| | | | | | | | | | |
LL LL L L LL HL
「州政府事務室室長の秘書」

3．2．咸鏡道方言（Ramsey 1978）の複合語アクセント規則との対照

3．1で述べた延辺朝鮮語の複合名詞のアクセント規則は、咸鏡道方言の複合語アクセント規則の2[5]と一致する。複合規則の1は現在の延辺朝鮮語にはあてはまらない。Ramsey 1978における複合規則1の語例の一部は延辺朝鮮語でも確認できるが、これらは語彙的に固定されたものであり、生産的ではない。

4．借用語のアクセントについて

延辺朝鮮語は現在同時に、中国語及び韓国語[6]と接触している。こういった異なる韻律体系を持つ言語からの借用語に、どのようにアクセントが付与されているのかは興味深い問題である。以下では、借用語のアクセント付与を観察することによって、延辺朝鮮語のアクセントについてのより本質的な解明を試みる。

---

[5] Ramsey (1978: 134-142)は複合語のアクセント規則について、次のように述べている：
複合規則1．
アクセントのある1モーラ名詞と、初頭（或いは唯一の）モーラにアクセントがある名詞からなる複合語では、第2要素のアクセントが消去される。
複合規則1´．
アクセントのある1モーラ名詞と、初頭（或いは唯一の）モーラにアクセントがある名詞からなる複合語では、第2要素が[＋主要部]という特徴を持たないかぎり、その（第2要素）のアクセントは消去される。
複合規則2．
複合語の構成要素である名詞のアクセントは、一番右のものを除いて、全部消去される。この規則は複合規則1の後に、離接的に（1が適用されない場合に）適用される。
複合規則1´´．
アクセントのある1モーラ名詞と、初頭（或いは唯一の）モーラにアクセントがある名詞からなる複合語では、第2要素が[＋主要部]という特徴を持たないかぎり、その（第2要素）のアクセントは消去される。なお、その第2要素が1モーラである場合、この規則は義務的であり、2モーラ以上である場合は随意的である。
[6] ソウル方言をもとにした韓国の標準語を指す。

4．1．韓国語からの借用語

	延辺朝鮮語	韓国語	
63）a.	/s'auná/		「サウナ」
	[s'auna]	[s'auna]	
	|| |	| | |	
	LLH	HHL	
b.	/k^hanatá/		「カナダ」
	[k^hanada]	[k^hɛnada]	
	| | |	| | |	
	LLH	H H L	
c.	/s'əpísɨ/		「サービス」
	[s'əbisɨ]	[s'əbisɨ]	
	| | |	| | |	
	LHL	H H L	
d.	/ros'iá/		「ロシア」
	[ros'ia]	[rosia]	
	| | |	| | |	
	LL H	LHL	

このような外来語のみならず、韓国語からの借用語は、原語（韓国語）のピッチパターンに従わず、全体的に尾高型になる傾向が強い。こういったことは尾高型が延辺朝鮮語のアクセントの default 型であることを示唆していると思われる。

4．2．中国語からの借用語

中国語を借用する際、延辺朝鮮語はその原語における声調の連続が何らかの prominence のパターンを示すものとして認識され、それをもとに、借用語へのアクセントが付与されると考えられる。

規則1：アクセントを付与する際は四声あるいは一声、次に二声、その次に三声を持つ音節に対応する音節にアクセントを付与する、という優先順位で行う。三声＋軽声という組み合わせ以外は軽声に対応する音節にアクセントが付与されることはない。

６４）　声調　　中国語　　延辺朝鮮語

a. 3+4+3[7]　ximiannai　/s'imɛ́nnɛ/「洗顔フォーム」
[ɕ'imɛnnɛ]
| | |
L H L

b. 3+1　erji　/ərc'í/　「イヤホーン」
[əltʃ'i]
| |
L H

c. 1+2　xifu　/s'ífu/「スーツ」
[ɕ'ifu]
| |
HL

d.4+3　diannao　/t'ɛ́nno/「コンピュータ」
[t'ɛnno]
| |
H L

e.3+0　qizi　/c^{h}ic'ɨ́/「栓抜き」
[tʃ^{h}itʃ'ɨ]
| |
L H

規則２：四声あるいは一声が２つ以上現れたり、四声と一声が混在したりする場合は、語末に一番近い四声か一声に対応する音節にアクセントを付与する。

６５）a.4+4　shangke　/s'aŋk^{h}ə́/「授業」
[s'aŋk^{h}ə]
| |
L H

b. 4+1　mianbao　/menpó/「パン」
[membo]
| |
L H

規則３：二声が２つ連続する場合は、左側の二声を持つ音節に対応する音節にアクセントを付与する。

---

[7] 数字１、２、３、４、で中国語声調の一声、二声、三声、四声を、０で軽声を示す。相対的な調値は一声 55、二声 35、三声 214、四声 51 とされる。

６６）２＋２　　qipaor　　/c^{h}íip^{h}or/「チャイナドレス」
[tʃ^{h}ip^{h}ol]
|　|
H　L

同じ一声か四声が連続する場合、あるいはほぼ相当する prominence が連続する場合（一声と四声の混在）、○○́型の借用語が圧倒的に多い。こういった現象により、ここでも、尾高型が延辺朝鮮語のアクセントの default 型であることを確認できた。

５．結論

以上において、延辺朝鮮語のアクセントパターンと韻律パターン、また複合名詞と借用語のアクセントを観察した。それにより、複合名詞アクセントの無標の付与位置が最右要素であることが明らかになった。さらに、尾高型が延辺朝鮮語の default 型であることは、中国語や韓国語からの借用語へのアクセント付与によって、傍証された。単純語も複合語も同じ規則に従って、それぞれアクセントの配置が行われていることも確かめられた。

参考文献：

梅田博之（1993）「延辺朝鮮語の音韻」『中国周辺部における言語接触と社会変容（共同研究報告）』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
大村益夫（1987）「中国の朝鮮語とその言語状況」『ILT NEWS』81 早稲田大学語学教育研究所
窪園晴夫・太田聡（1998）『音韻構造とアクセント』研究社出版
早田輝洋（1999）『音調のタイポロジー』大修館書店
福井玲（1999）「アジア各地の朝鮮語の現状」『言語』Vol.28, No.9 大修館書店
　編（2000）『韓国語アクセント論叢』ICHEL Linguistic Studies Vol.3
朴永梅（2000）「延辺朝鮮語のアクセントに関する考察」京都大学大学院文学研究科（行動文化学専攻言語学専修）2000 年度修士論文
郭忠求（1994）『咸北六鎮方言の音韻論』（原文は韓国語）国語学叢書 20 国語学会（韓国）
全学錫（1986）「中世朝鮮語の傍点と延吉地方話の高低との比較」『朝鮮語学論文集』（原文は朝鮮語）遼寧人民出版社
　（1988）「中世朝鮮語の傍点と延吉、開原地方話の高低長短との比較」『朝鮮語研究』（2）（原文は朝鮮語）延辺社会科学院語言研究所

(1991)「咸鏡道方言の韻律特徴に関する実験音声学的な分析」『語言文学学術論文集』(原文は朝鮮語) 延辺人民出版社
(1993)『咸鏡道方言の音調に関する研究』(原文は朝鮮語)
鄭然粲 (1974)『慶尚道方言声調研究』(原文は韓国語) 国語学会 (韓国)
McMahon, April M. S. (1994) *Understand language change* Cambridge U.P.
Kenstowicz, Michael (1994) *Phonology in Generative Grammar* Blackwell Publish
Ramsey, S. R. (1974)「咸鏡、慶尚両方言のアクセント研究」『国語学』2 (原文は韓国語) 国語学会(韓国)
Ramsey, S. R. (1978) *Accent and Morphology in Korean Dialects* 国語学叢書 9 国語学会(韓国)

Accent of Yanbian Korean in China

Youngmae Park

Abstract

Approximately a million Koreans reside in the Yanbian Korean Autonomous Prefecture in Yanbian, China. Based primarily on the observation made in the capital city Yanji (of Yanbian), I attempt to describe the local Korean accent system synchronically, and clarify the following points at issue in this paper.

1. Yanbian Korean is a pitch-accent language. The total number of phonological accent patterns for any noun of n syllables is equal to n+1, but the number of phonetic pitch patterns for any noun of n syllables is equal to n, for phonologically unaccented pattern

   ○ ...○○ and rightmost accented pattern ○...○○́ are realized as the same phonetic pitch pattern as L...LH.

2. The rightmost accented pattern ○...○○́ is the default one in Yanbian Korean.
3. The accent of the compound noun is predominated by the rightmost elements. That is to say, only the accent of rightmost element is maintained, while those of all the others are deleted.
4. What is possible to say is that the accents of simple word and compound noun are predominated by the same accent law.